

失われた泥地

■埋められた泥地

宮城県沿岸では、堤防の工事が進められている。それは蒲生干潟でも同様である。今回の調査では、工事の進捗により泥地が埋められたことが確認された。

Fig.1は2016年に撮影した蒲生干潟全景である。黄色枠で囲んだ部分に泥地があり、コメツキガニ・チゴガニ・アシハラガニ・ヤマトオサガニが生息していた。Fig.2・3は2016年8月のAの様子であるが、柔らかい泥地に多くのカニ類が観察された。堤防工事により埋められたのはAの泥地である。Fig.4・5は今回の調査で撮影したAであるが、Fig.2・3と同じ場所に同じ印が付けてある。環境の変化は明確である。

蒲生干潟は広く砂地が広がっており、チゴガニ・ヤマトオサガニが生息する泥地はFig.1の4カ所であった。しかし、Bの泥地は今年、隣接する池が埋められたことにより失われている。残された泥地はC,Dのみである。今後のカニ類の生息状況に目を向けていきたい。

(Fig.1 蒲生干潟全景 3枚の写真を合成)



(Fig.2 Aの泥地東部、干潟に隣接する側)



(Fig.3 Aの泥地西部、内陸側)



(Fig.4 Aの泥地跡 ▲ がFig.2と同所)



(Fig.5 Aの泥地跡 ★ がFig.3と同所)

(佐藤 賢治)